

グリーンウォッシング：原因と結果

アリ・ファテミ（英文執筆）

白須 洋子（翻訳・編集）

目 次

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. はじめに | 4. グリーンウォッシングは効果があるのか？ |
| 2. 責任ある行動の評価効果 | 5. グリーンウォッシングと格付け |
| 3. グリーンウォッシングに影響を与える要因 | 6. 結論 |

本稿では、グリーンウォッシング（greenwashing）に関する先行研究をコーポレートファイナンスの観点から整理している。エージェンシー理論の枠組みでグリーンウォッシングの要因を議論し、企業価値への影響を検討する。また、第三者によるCSR/ESG格付けは、グリーンウォッシングのリスクに対して有効ではなく、グリーンウォッシングがもたらす脅威は、強力な規制を中心とした強固なチェック・アンド・バランスのシステムによってのみ緩和される。なお、本稿は本文と補論で構成されており、詳細を補論で述べている部分については本文中に注が付されている。

1. はじめに

「グリーンウォッシング（greenwashing）」という言葉が使われ始めてからの歴史は比較的浅い。消費者が一斉に環境問題に関心を持ち始めた

1970年代後半以降である。以来、環境意識の高まりを受けて、多くの機会主義的（日和見主義的）な企業は、グリーンの旗を掲げ、自社製品の環境への素晴らしさを誇示するようになった。中には、ロゴマークや広告キャンペーンのみを変更し、そ



アリ・ファテミ（Ali Fatemi）

デポール（DePaul）大学ファイナンス学部名誉会長兼教授。シカゴに本社を置くサステナビリティに特化したコンサルティング会社Greenleaf Advisorsの取締役。Global Finance Journal編集長。Midwest Finance Association元会長、Journal of Applied Finance元編集者。Journal of Finance、Journal of Banking and Finance、Journal of Business Research等の主要学術雑誌に多数の論文を掲載。研究テーマは、サステナブル・ファイナンス、社会的責任投資、M&A、配当、コーポレート・ガバナンス。2021年11月に東京で国際コンファレンス（“CSR, the Economy and Financial Markets”）を主催する予定。



〔翻訳・編集〕

白須 洋子（しらす ようこ）

青山学院大学経済学部教授。横浜国立大学大学院博士後期課程修了。博士（経済学）。